

会 議 等 経 過 報 告 書

市 長	副 市 長	部 長	課 長	館 長	館長補佐	係 長	課 僚	主 任
令和5年7月20日								
報告者 職・職名 中央公民館 館長 飯 田 秀 ⑩								
1 会 議 名	令和5年度大船渡市立公民館運営審議会							
2 日 時	令和5年6月30日（金）午後2時00分～午後3時00分							
3 場 所	大船渡市民交流館・カメラアホール 多目的ホール							
4 出 席 者	公民館運営審議会委員：12名（志田倫代氏、薄衣裕昭氏、志田広記氏、佐藤善公氏、舟野ひとみ氏、佐々木晋氏、畠山邦子氏、大和田勇氏、高師一郎氏、及川孝子氏、村上泰子氏、斉藤恵里氏） 事務局：5名（佐藤協働まちづくり部長、山岸生涯学習課長、飯田中央公民館長、高橋館長補佐、鈴木主任）							
会 議 等 の 内 容								
1 開会（進行：飯田館長） 2 あいさつ（佐藤部長） 委員自己紹介 事務局職員の紹介（山岸課長） 3 会長及び副会長の選任（進行：飯田館長） 会長と副会長の選任方法について諮ったところ、事務局案があれば出してほしいとの声があったことから、事務局案として、会長に薄衣裕昭委員、副会長に佐々木晋委員を提案し、全会一致で承認された。 会長あいさつ（薄衣会長） 4 報告（議長：薄衣会長） 報告第1号 令和4年度大船渡市立公民館事業の実施状況について （薄衣議長） 次第4 報告第1号 令和4年度大船渡市立公民館事業の実施状況について、事務局から説明をお願いする。								

(高橋館長補佐)

別添資料により、令和４年度大船渡市立公民館事業の実施状況について、説明する。

(舟野委員)

令和４年度もコロナ禍の状況であったが、オンライン形式による講座を開催するなど、取り組みに努力しており、いいことだと思う。

(斉藤委員)

課題にある新たな地域課題とはどのようなものか。

(高橋館長補佐)

具体的なテーマで言えば、例えば、空き家対策、高齢化による介護の問題、交通対策、スマホやＩＴなどによる新たな生活様式への転換等、それぞれの地域における課題があると思うので、そのようなことをテーマとした講座の開催を考えている。

(佐々木委員)

令和４年度に開催した講座にある歴史講演会は、甘竹勝郎氏の講演会等だと思うが、私の勤務する大船渡商工会議所でも地元就職した新規学卒者を対象に、気仙に誇りを持ってもらおうと、甘竹氏に講師をお願いし、「産金」に関する講演をしていただいた。講演会終了後に甘竹氏から、これまで自分が講演会等で話したことがほとんど記録として残っておらず、話せる後継者もない状況であるということを伺った。

甘竹氏には、この気仙地域が、世界に誇れる金の産地であったことなど、歴史について広くお話ししていただいているが、もし可能であれば、講演会等の記録をとっていただいて、大船渡の魅力発信に活用していただけないものか。

また、先ほどの質問でもあったが、新たな地域課題について、計画や事業の目的の中に人口減少という表記があるが、子ども達が地元に残っていない、戻ってこないということから、どんどん若い世代が少なくなっている現状なので、やはり地元の良さやここはいい所だなと思えるような内容を講座や研修会等にうまく取り込んだ計画にしたい。

(飯田館長)

貴重なご提言をいただいた。

ただいまお話ししていただいた内容については、今年度、新たな事業を計画しているので、この後の事業計画のところで説明させていただく。

(薄衣議長)

ツイッターやラインを活用して講座等のＰＲをしているようだが、効果は表れているか。例えば、定員に制限がある場合、それより多くの参加希望があったりするものか。

(高橋館長補佐)

青少年体験学習事業や英語体験教室などは、ツイッターやライン、市の広報を通じて

募集をかけており、ここ 2、3 年は定員以上の申し込みがあり、人気がある状況は続いている。当然、抽選もれになる場合もあり、これまでは、抽選にもれた人たちにも対応できるように進めてきた講座もある。昨年度の青少年体験学習事業については、陶芸体験学習事業とドローンのプログラミングを実施したが、どちらもやはり定員以上の応募があった。

5 協議（議長：薄衣会長）

協議第 1 号 令和 5 年度大船渡市立公民館事業計画について

（薄衣議長）

次第 5 協議第 1 号 令和 5 年度大船渡市立公民館事業について、事務局から説明をお願いします。

（高橋館長補佐）

別添資料により、令和 5 年度大船渡市立公民館事業計画について、説明する。

（高師委員）

今年度の英語スクールは、6 月 24 日に終わっているが、参加人数や状況について教えていただきたい。

（高橋館長補佐）

英語スクールについては、第 1 部、第 2 部いずれも 10 組 20 人の定員に対し、申込者数は、第 1 部が 23 組、第 2 部が 11 組で定員以上の申し込みであったため、抽選で参加者を決定した。

実施状況については、アンケートをとっており、とても良かった、良かったと回答した子どもは 100%、保護者は 94.4%で、満足いただけた講座であったと思っている。

また、自分ですんで取り組むことができましたかという問いに対しては、できた、まあまあできたと回答した子どもは、88.9%、子どもが意欲的に取り組むことができたかという問いに対しては、できた、まあまあできたと回答した保護者は、94.5%ということであった。

（飯田館長）

当日の状況であるが、教室は、ほぼ英語で進められ、子供たちは、講師のジェスチャーや雰囲気の内容を理解している様子で、ゲームをしたり、英語で歌を歌ったり、英語に触れてもらう良い機会だったと捉えている。

（薄衣議長）

新しい事業のふるさと教育講座は全中学校に出向いての開催になるか。

(飯田館長)

この事業については、浜上市長の意向もあり、今年度から令和7年度までの3か年を計画期間とし、市内4校の中学生を対象に出前講座として行う計画である。

令和5年度については、郷土の歴史を学ぶということをテーマとして行い、令和6年度、7年度は、自然や産業、文化等をテーマとして考えている。

(薄衣議長)

歴史の学習などは授業で行うが、子どもたちにふるさとの良さを知ってもらうという点では非常に良い機会である。

(薄衣議長)

以上で議事を終了し、以降の進行を事務局にお願いする。

6 その他（進行：飯田館長）

(飯田館長)

次第6 その他について、委員から発言を求める。

(大和田委員)

館報カメラの発行回数が少ないように感じている。事業の実施状況等を確認する意味合いもあるが。

(飯田館長)

発行回数を増やすよう努力する。

7 閉会（飯田館長）